

本州最南端修学旅行 民泊による心のふれ合い、 思い切り体験活動

教諭 水野 晃敏

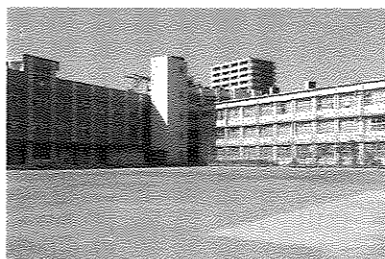
●学校紹介

本校は、大阪市南部住吉区にあり昭和22（1947）年に大阪市立住吉第三中学校として開校した。そして、昭和24（1949）年に現在の校名、大阪市立三稜中学校と改名される。「三稜」の由来は、当時の校区が大阪市立墨江小学校、遠里小野（おりおの）小学校、清水丘小学校の三小学校の校区だったことで「三小学校を礎として結んだ頂点にある学校として発展する」という意味が込められている。今年で創立69年を迎える伝統ある学校である。

近隣には大阪府立視覚支援学校があり、毎年交歓会を実施している。両校の生徒会が中心となり、文化祭や体験授業などを通して交流を深めている。

平成27（2015）年度の全校生徒数は519名（3学年とも5学級、特別支援学級は7学級）、教職員は46名で、大阪市立の中学校としては中規模の学校である。部活動は、運動系が7、文化系が6あり、全校生徒のほぼ8割が参加している。放課後の練習時には近隣の中学校も、合同練習という形で参加することが多く、グラウンドはいつも生徒の活気であふれている。

校訓である「誠実 協和」の精神のもと、生徒達は福祉ボランティアにも興味を持ち、福祉体験やケアハウスを訪問してのお年寄りとの交流などに力を入れている学年もある。また、校区内の清掃活動も積極的に行っている。



学校外観

School Data

【創立年】昭和22（1947）年
【教育目標】自ら学び考える力をそなえた心豊かな生徒の育成に努め、生徒・保護者（地域）・教職員が信頼で結ばれ、生き生きと活動する活気あふれる学校を作る。
【生徒数、教職員数】生徒数：519名 教職員数：46名

実施要項

- ・旅行先 和歌山県東牟婁郡串本町
- ・時期 平成27年5月27日（水）～29日（金） 2泊3日
- ・実施学年 第3学年 5学級170名 引率教員数14名
- ・日程概要

1日目：5月27日（水）	学校→大浜I.C→阪神高速・関空道・阪和道・湯浅御坊道路→南紀田辺I.C→国道42号→串本海中公園（昼食）→午後：串本町周辺にて体験活動→串本町各地区民泊（グループ別）
2日目：5月28日（木）	各地区→終日：串本町周辺にて体験活動→串本ロイヤルホテル
3日目：5月29日（金）	ホテル→国道42号→白浜アドベンチャーワールド→湯浅御坊道路・阪和自動車道・関空道・阪神高速→学校

1 修学旅行目的地決定までの流れ

本校には特別活動委員会があり、そこで修学旅行の大まかな目的・方針を決定してきた。方針は次の2点である。①一泊は民泊とし、その土地の人々と心の交流を持つ。②普段日常では体験できないような活動を経験する。この2点を踏まえれば具体的な目的地は各学年の判断に委ねられる。

今回、この学年では、九州方面、関東方面、そして3年前に初トライした和歌山県串本方面が候補に挙がった。この3案において総費用、体験活動の内容、交通手段とその所要時間などを比較検討した結果、和歌山県串本方面に決定した。

決め手となったのは、近さ（交通費が安く済む。移動時間を短縮することにより活動に多くの時間を割ける）と、豊富な体験メニューであった。特に、移動だけで終わってしまいがちな初日と最終日にも体験活動ができるように、他にはない大きな魅力を感じた。

2 修学旅行の目的

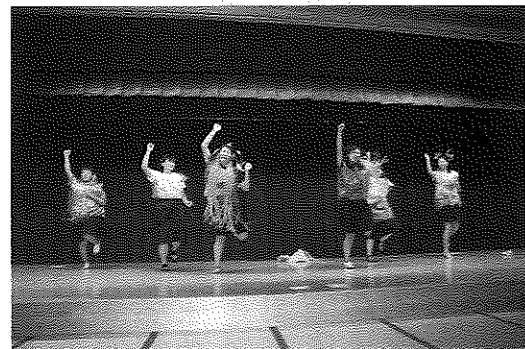
- ① 地域の人々との交流を通して見聞を広める。
- ② 自然の中での体験活動を通じて、自然に親しみ、仲間と協力することを学ぶ。
- ③ 生徒相互の人間関係を深め、学年の仲間づくりを進める。

●重点を置いた活動

「心触れ合う民泊と、笑顔はじける体験活動で、心を育てる」



修学旅行委員会のメンバー



夜のレクリエーション風景

④ 集団行動を通じて、規律を守り協力することを学ぶ。

以上の4つを目的とし、それを具体化していくためにさまざまな取り組み、計画をたてた。

3 修学旅行委員会の活動

この学年は、1年時から学年目標を「自主自立」としてきた。それゆえ、今回の修学旅行では「修学旅行委員会」を作り、修学旅行全体の方向性を生徒主体で考えさせていくことにした。委員は各クラス男女2名ずつで、合計20名の構成とした。クラスで希望者が多数出て、委員を決めるのに苦労した担任もあったようだ。最終的には、みんなのために頑張ろうという気概にあふれた生徒が20名集まった。委員会で検討した内容は以下の3項目である。

4 事前学習

- ① 修学旅行全体のルール作り
 - ② バスレクの内容
 - ③ 2日目夜のクラス対抗レクの内容
- 特に①のルール作りでは、服装はどうするのか、持ち物は何が必要か、お小遣いはいくらが妥当かなどを話し合った。また、バスやホテルでのマナー、民泊での服装やマナーなどについてもいろいろ意見を出し合い協議を重ねていった。そして、教師の考えも加えて、最終的なルールを作成していった。

今回の目的地である串本町について、どのような町であるのかを調べていく中で、トルコの国との関わりを知ることができた。明治23（1890）年に串本大島近海でトルコ船・エルトゥール

ル号が座礁事故を起こした。この時、大島樫野地区の人々が乗組員を救出するために献身的に活動した。危険な状況の中での日本人の行為にトルコの人々がいたく感謝し、日本に対して友好的な気持ちを抱いた。そして、イラン・イラク戦争時にイランに取り残され

た日本人を救出するためにトルコ政府が救援機をだしてくれたことなどを学習した。大島の檜野には遭難事故の慰霊碑やトルコ記念館があり、トルコのお守りや、民芸品なども紹介されている。

5 活動内容

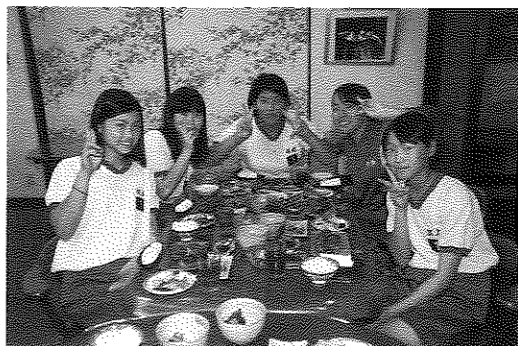
(1) 串本町での民泊

目的の一つである「地域の人々との交流を深める」ということから民泊を実施した。串本町の4つの地区(串本地区、須江地区、大島地区、檜野地区)に分かれ、一家庭に3~6人でお世話になることにした。

旅行の2週間前には手書きの自己紹介カードを作り、各家庭に郵送させてもらった。その際、各家庭からも好きな食べ物やアレルギーについての問い合わせがあるなど数々の配慮をいただいた。

当日の入村式では、初対面とは思えないような温かい出迎えをしていただき本場にありがたかった。おかげで生徒たちは各家庭にスムーズに馴染んでいったように思う。また、その日の夕食には、大阪では普段食べられないようなご馳走が並んだことが生徒の感想文、お礼状などからうかがえた。

たった一泊の宿泊ではあったが、退村式の時には、次の活動時間が迫るまで写真を撮ったり手を取り合っただけを惜しむ姿が見受けられた。この光景からも民泊は成功に終わり、目的を達成することができたと確信した。



民泊での食事風景

後日、民泊先の方々から生徒たちの写真を送っていただくことがあった。また、生徒が送ったお礼状には「串本のお父さん、お母さんへ」と記したものが多数あった。

生徒のお礼状

先日はどうもありがとうございました。お世話になりました。家に着いたときはとても大きな家だったのでびっくりしました。晩ご飯と朝ご飯、うまい飯を腹いっぱい食べられました。おいしかったです。

初めて食べたトルコアイスには驚きました。夜に連れて行ってもらった釣りは、3本とも釣竿を壊してしまいました。魚やカニがとれて楽しかったです。

お風呂がとてもハイテクでビックリでした。家の風呂で男3人入れるとは思いませんでした。このことは大人になっても覚えていきたいと思います。ありがとうございました。

(2) 体験活動

今回の修学旅行において最大のセールスポイントとは、豊富な種類と充実した内容の体験活動である。初日の午後は、「本マグロの養

殖体験」「真鯛養殖と大島クルージング」「海釣り公園での釣り体験」「水族館飼育体験とステラマリス号乗船」「天然塩とトルコのお守り作り」の中からひとつを選択して体験した。

2日目は午前・午後のそれぞれに体験活動ができ、「無人島体験ツアー(終日)」「古座川カヌー川下りとスノーケリング体験」「シーカヤックとドルフィンスイム体験」「水族館飼育体験と天然塩、トルコのお守り作り」の中からひとつを選択した。3

日目は午前中に白浜の「アドベンチャーワールド」に移動し、クラスの枠を無くしたグループで自由に行動をさせた。「学年」という枠



体験活動(ドルフィンスイム)



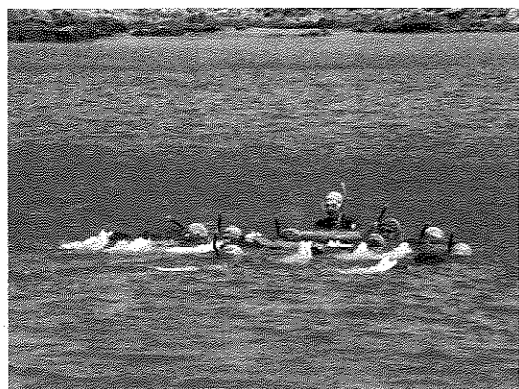
体験活動(無人島探検)

を意識して行動することにねらいがあった。

大阪では普段体験できないものばかりで、特に2日目の体験活動はどれを選択すればよいのかなか決めきれずいた。どれもやってみたくて魅力的であった。中でもスノーケリングを選択した生徒は、海底のあまりの綺麗さに驚いたようである。本州でありながら沖繩と同じようなサンゴや、色とりどりの魚を近距離で見ることができて非常に心を動かされていた。大阪からこんなに近いところで、こんなにすばらしい体験ができると思わなかったようである。

生徒の感想文

私は、2日目の午前中にスノーケリング体験午後からはカヌーでの川下り体験をしました。スノーケリング体験ではまだ少し冷たい海の中



体験活動(スノーケリング)

に入って綺麗なサンゴや、クマノミなどのたくさんの海の生き物を見ました。海の結構深いところまで泳いでいたので、普段の生活にはないわくわく感を味わうことができました。カヌー体験では、まずカヌーの乗り方から教えてもらい、その後川の上流から下流までくだりました。カヌーに乗っているときは、水の掛け合いで、下流に着いたときには全身ずぶ濡れになっていました。どちらの体験もすごく楽しい良い思い出になりました。

6 事後アンケート

修学旅行後アンケート形式で個人の振り返りをした。主な内容は、「自分たちで決めたルールを守ることができたか」「修学旅行を十分に楽しむことができたか」である。ルールを守る点については、大多数の生徒が自分で判断し正しい行動ができたことと答えた。楽しむことができたかについては、「満足した」と答えた割合が民泊84%、各体験活動については、古座川カヌー93%、シーカヤック88%、無人島体験87%、スノーケリング87%、ドルフィンスイム85%、水族館と塩作り71%等、どれも高い数字であった。和歌山への修学旅行については88%の生徒が「よかった」と答えた。

7 まとめ

事後アンケートの結果からも、今回の修学

旅行はおおむね成功したと思える。5月上旬に行った保護者説明会で、目的地和歌山ではあまりにも近いのではという声も少し聞かれたが、生徒の感想やアンケート結果から保護者も納得してもらえたと思う。実際の距離も大阪から串本までは230km程度、岐阜県方面へ行くのとあまり差は無いようである。また、場所柄、津波対策は重要なポイントである。大地震が発生し活動中や宿泊時に津波が襲ってきたらどのように対処するのか、その対策はどうなっているのか等について、現場のインストラクターや和歌山県の観光課の方から事前に説明を聞いた。串本町は海岸段丘の面下であり、もし津波の危険性が発生した場合は段丘の上に避難するということがあった。2泊目のホテルは段丘の上にある。また、大島に民泊中の場合は、島の高台に避難する計画になっていた。町の各所に、「ここは海拔何m」という表示がされており、万一の場合の避難経路を想定して行動することができた。

さらに嬉しいことは、不登校気味の生徒の多くが修学旅行に参加することができたことである。友人たちと行動を共にすることで、登校するエネルギーを充電してくれれば良いと思う。今後、笑顔で元気に校門をくぐってくれれば幸いである。

今回の修学旅行で味わった感動や思い出をもとに、今後の学校生活をより有意義に過ごせるように願うばかりである。